# 出来事ファイル (№22－12)

## 神戸・西元町のD51、ライトアップ式典が挙行されました

**神戸・西元町のD51を守る会　代表　飯野 浩三**

いつも神戸駅東側のD511072保存・維持活動へのご理解、応援本当にありがとうございます。このほど10月28日、D511072の保存現地において、久元神戸市長御臨席のもと、ライトアップ開始記念式典が挙行されました。

D51が定期的に磨かれ、美しくなっていくことにより、保存場所横を通る人の流れも大きくなり、地域の方々や、この地域に通う方々、観光や買い物に訪れた方々の癒しスポットとなっているのは間違いがなく、記念撮影をする方々も増えてきました。

市長自ら、現地を訪問してライトアップをしてはどうかと思われたそうで、まさに私たちが願っていたこと、夜にも燦然と輝き、地域を照らし、明るさと安全を提供するスポットとなるわけで、こんなに喜ばしいことはありません。

10月28日当日は、機関車脇の道路を一部通行止めにして、そこに式典会場を設営するなど神戸市建設局様も本気で設営をしてくれました。久元市長、みなと元町タウン協議会奈良山会長様、もとまちハーバー懇談会古賀野会長様、神戸ホストライオンズクラブ中野会長様にご臨席いただき、厳かなそして慎ましやかでありながら華やかなライトアップ点灯式が開式されました。久元市長からは、地元のこれまでの美観維持への努力に謝意を表していただくとともに、変わる神戸駅前、その始まりがこのデゴイチライトアップであることが明言されました。

そのあと僭越ながらも私がスピーチをさせていただき、これまでのD51を守る会への市役所や地元の団体、地域の皆様による支援に感謝を申し上げ、D51の略歴、活動内容の簡単な報告、近隣の鉄道車両保存活動との連携、今後への想いなどを語らせていただきました。

このあと、市長始め来賓5人で点灯ボタンを押すと、D51は神々しいまでに光り輝きその堂々たる雄姿を見せてくれました。また当日はサンテレビジョン、神戸新聞、神戸ジャーナル、有名ユーチューバー、有力鉄道雑誌などが報道してくださり、全県、全国にニュースが流れたのも嬉しいことでした。ライトアップは終着点ではなく始発駅と私たちは見ております。今後ますます注目されるD51であるからこそ、さらに活動継続への努力をしていきたいと思う次第です。

此度はありがとうございました。

守る会代表 飯野様　みなと元町タウン協議会会長 奈良山様　神戸市長 久元様
もとまちハーバー懇談会代表 古賀野様　ホストライオンズクラブ会長 中野様(左から)

## ■もとまちハーバークリーン作戦

もとまちハーバー懇談会では11月2日(水)正午12時から、地域一帯のクリーン作戦を実施した。奈良山会長・ＪＲ神戸駅・エスタシオン・デ・神戸から９名、ベルコから６名、ネッツトヨタ兵庫㈱から２３名とたくさんの方々の参加がありました。

奈良山会長・JR神戸駅・エスタシオン・デ・神戸

ベルコ

ネッツトヨタ兵庫㈱

## □読者プレゼント

観覧ご希望の方は、展覧会名と住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添え、本紙編集部までハガキでお申込み下さい。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

### ◎郷土作家シリーズ　二つの展示

村上暁人「網つくろい」

2022年という2が揃った年にちなんで、収蔵作品の中から、二つのモチーフが描きこまれた絵画、2点あわせて1組の作品などを集めました。

12月17日(土)～2023年1月15日(日)
明石市立文化博物館　☎078－918－5400

### ◎アリスーへんてこりん、へんてこりんな世界ー

トランプに襲われるアリス、『不思議の国のアリス』より、ジョン・テニエル画、幻灯機用スライド、1898～1900年　© Victoria and Albert Museum, London

英国のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(V&A)で、「アリス」の文化現象をたどる初の大規模展が開催されました。その世界巡回となる本展は、「アリス」の原点から今日に至るまでの歩みを約300点の作品や映像演出により紹介するものです。

12月10日(土)～2023年3月5日(日)
あべのハルカス美術館　☎06－4399－9050

## 栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は、11月11日(金)１０時から１０時３０分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(㈱ＫＫテクノ)中村圭遥、(けんしんサービス(株))井上知長、(こうべまちづくり会館)木原正剛、(神明倉庫(株))大西登紀子、(大一産業(株))福田尚紀、(トマト銀行)岡村恭輔、(兵庫県信用組合)井上博仁・小林洋文・山本周三、(三鈴マシナリー(株))田中梨沙、(元町サポート隊)諫山一彦、(新光明飾(株))中川俊・藤田直之・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、１７名のみなさんでした。毎月第２金曜日午前１０時、栄町通６丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

## 編集後記

世界の目がロシアとウクライナに集まっている。▼とは言うものの、出演者は前触れもなく突然攻撃を仕掛けたロシアのプーチン大統領と、突然襲われ、満身創痍ながらウクライナを死守するゼレンスキー大統領だ。▼最近、一方的に攻撃を受けていたウクライナ側の反転も報じられるようになり情勢は新しい展開をみせている。日本に関係ない遠い国の事件と思っていたら、昨日ウクライナ軍に身を投じて戦っていた日本人の死亡も報じられた。ウクライナにも、多くの日本人が在住しており、敵対するロシアにも多くの日本人が住まう時代である。▼テレビの中でプーチン大統領と対面しているロシア高官の映像に接するとき、その内心をうかがいながら１日も早い戦争の終結を祈る。

## 神戸元町商店街 楽市楽座情報 12月

### ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) ℡361－4523

12月　1日(木)～12月 6日(火)　彩風会スケッチ展
12月　8日(木)～12月13日(火)　竹田眞・永田収合同作品展「神戸残像5」
（展示は9日午後～）
12月26日(月)　まちづくり・キッズセミナー
～くらしを守りまちを作った人・技術にふれる1日～

### ◇元町映画館(有料) ℡366－2636

12月　3日(土)～12月 9日(金)　『帰ってきた宮田バスターズ(株)』
12月　3日(土)～12月16日(金)　『冬の旅』・『ミスター・ランズベルギス』
12月10日(土)～12月16日(金)　「香港映画祭2022」
12月17日(土)～12月23日(金)　『I AM JAM ピザの惑星危機一髪!』
「中央アジア今昔映画祭2022」・『の方へ、流れる』
12月24日(土)のみ　『まっぱだか』
12月25日(日)のみ　『きょう、映画館に行かない?』
12月24日(土)～12月30日(金)　『アナザー・カントリー』
12月26日(月)～12月30日(金)　『ハッピーアワー』
【予定は変更になる場合がございます。】



みなと元町 TOWN NEWS タウンニュース

発　行:みなと元町タウン協議会　住　所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内　発行人:奈良山喬一　編集人:岩田照彦　電話・FAX:078－391－0831

# タウン協拡大エリアのまちづくり構想素案・アンケート実施へ

合資会社ゼンクリエイト　根津　昌彦

昨年6月、ハーバーロード以西(以南)でJR神戸駅までの三角エリアを、タウン協の区域とすることが役員会で承認されました。それ以降、もとまちハーバー懇談会にワーキンググループをつくり、毎月1回のペースで、拡大エリアのまちづくり構想案を作成するべく、話し合いや関係者に対してアンケートによるヒアリングを行うなどして協議を重ねてきました。

この程、「JR神戸駅・ハーバーロード周辺のまちづくり構想素案」というカタチで、拡大エリアの①まちづくり基本方針、②テーマごとの再整備方針、③まちづくり全体構想図を取りまとめることができました。11月28日(月)には、拡大エリア内でお住まいの方、事業をされている方に対して、構想素案冊子とアンケート調査票を、ハーバーロード・ワーキングに参加しているメンバーが手分けしてポスティングしました。地域の皆さんに広く構想素案をお知らせするとともに、約1年かけて取りまとめた構想素案に対して、賛意を示していただける方や一緒にまちづくりに取り組みたいという方を発掘したいという思いで、直接投げかけを行ったものです。

テーマごとの再整備方針では、「きらら広場の有効活用」「元町商店街バス停留所の復活」「JR神戸駅～元町商店街への南北動線の強化」「JR神戸駅～ハーバーロードへの南北動線の強化」について、イメージスケッチや写真を用いながら、具体的な再整備の方向を示しています。これらが実現できれば、ハーバーロードからJR神戸駅前までのエリアがさらに魅力ある場所と変貌を遂げること、間違いなしです。

日ごろ元町商店街を楽しんでおられる来訪者の方々や商店街でお商売をされている方々にも、ぜひ構想素案をご覧いただき、率直なご意見やご感想、また今後に活動推進に向けたエールをいただけましたら幸いです。本文最下段にあります、Googleドライブにアクセスいただくと構想素案がダウンロードできるようになっています。そちらをご覧いただき、Googleフォームにアクセスいただいて、ぜひアンケートにお答えください!

アンケート集計結果については、タウンニュース2023年2月号にて発表いたします。元町商店街の西側がますます熱くなります。思いを持った方々に、いろんな「できること」を提供いただいて、一緒に盛り上げていきたいと願っています。

以下 QR コードまたは URL から、Google ドライブにアクセスし、ドライブ上でまちづくり構想素案をご覧の上、Google フォームでアンケートにお答えください。

■Google ドライブ
URL:https://drive.google.com/file/d/1oXNY3YCOiS4j3dbcAIZbbncRZTFNokBX/view?usp=sharing
QR コードはこちら→

■Google フォーム
URL:https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSegg7ZKbSADzPT03U7YHwl8NZB3CLDsZYpKVSLIUyS-gY0HRw/viewform
QR コードはこちら→

## 3　まちづくり構想図

### 全体構想図

望ましい土地利用や再整備の考え方を下図に示します

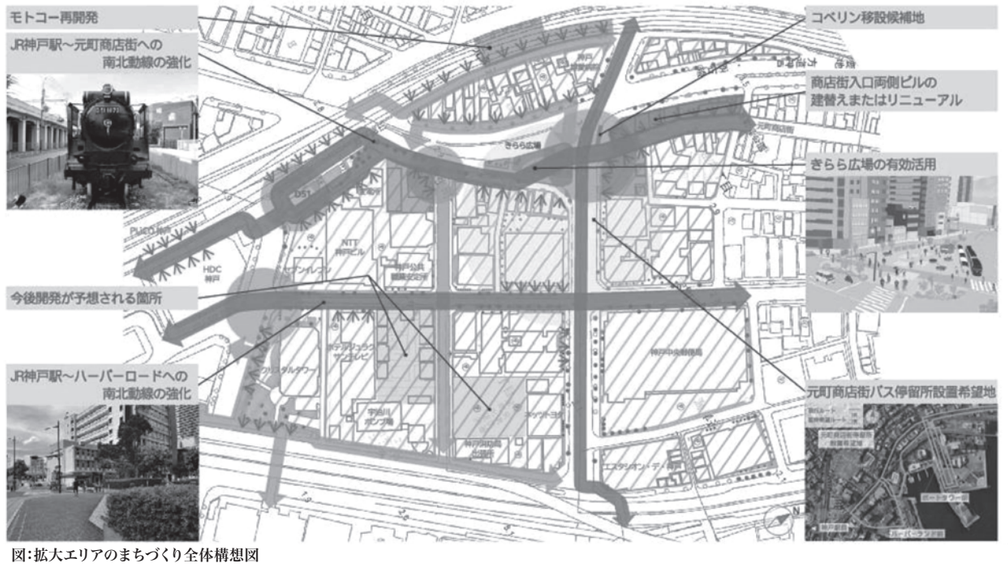


図:拡大エリアのまちづくり全体構想図

# 海という名の本屋が消えた（109）

平野義昌

## 西村旅館（1）

栄町3丁目に「西村旅館」（以下「西村」）があった。明治初めから昭和戦前、開港場の船客専門旅館として多くの人を送り出し、迎えた。太平洋戦争空襲で建物は焼失したものの、三代目・西村貫一は宿帳など文書を守り、『西村旅館年譜』（以下『年譜』（写真））をまとめた。新聞記事などで記述の裏付けを取り、貴重な歴史資料となっている。

話は幕末の大坂から始まる。西村絹（きぬ）は1825（文政8）年河内の旧家「西村家」（分家）の生まれ（補註1）。兄が早世し、絹夫婦が後を継いだ。夫・河内屋小兵衛は河内名産・綿花栽培に使う肥前鍋島藩の干鰯肥料を商う。69（明治2）年藩用達から士分になり、改名して仁兵衛（のち高則）。夫婦は天満で藩士用の宿を開業、花屋の株を持つことから「花屋旅館」と称した（補註2）。大阪築港に際し500円の寄付をするほど繁盛したが、高則が米相場に失敗。一時東京に移った。

西村夫婦の神戸進出頃の交通と宿の状況を見ておく。68（慶応4）年1月1日開港を前にして、京と西国を結ぶ西国街道は原則旅人通行禁止になった。神戸村には外国人居留地がある。徳川幕府は横浜で起きたイギリス人と大名行列衝突事件（62年・文久2年「生麦事件」）再発を恐れ、石屋村（現在神戸市東灘区）から明石まで山道を利用した迂回路を新設した。「西国往還付替え」＝徳川道である（補註3）。港近くに宿屋はなく、海路の旅人が止宿する家が4～5軒あった。港が賑わうと座敷貸し業者や民家が宿泊させ、船が着くたびに客引き競争が激化。70（明治3）年宿屋取締令で営業免許制になる。帯刀人は旅人宿、商人は商人宿と区別され、取締人が宿泊者を割り当てするなど規制ができた。73（明治6）年頃免許を持つ旅宿は79戸。強制的な割り当てに不満があり、取り決めは乱れた。86（明治19）年宿屋取締規則により旅人宿・下宿・木賃宿に分類され、警察の監督下になった。料金や客間の構造などが規定された。註1

西村夫婦が「西村」（屋号「花屋」）を開業した正確な年月日は不明。絹の妹・久の夫久助が肥前大村藩から大阪・神戸間の鉄道敷設用枕木を買い付け神戸港に陸揚げし、塗り物商も営んでいた。その場所が「西村」創業地。鍋島藩主の屋敷が民間に払い下げられ、元藩士の坂本経国が買い、その後に絹の所有となった。名義人は絹の叔母・梅。75（明治8）年の栄町の土地を担保に5千円借用書類（破損のため貸主名は不明）が『年譜』に残る。

〈旧佐賀藩藩主の所有だった堂々たる家屋を借り受け、伊万里焼の店を開いたが不振。地の利を考えて旅館業に転じた。売り物は、絹の気っぷのよさ。これが当たった。〉註2

「地の利」とは74（明治7）年の大阪・神戸間鉄道開通であり、さらなる鉄道計画の進行である。神戸は汽車と船の乗り換え地、海と陸のターミナルになる。

絹の人柄も評判だった。客筋は佐賀人脈の大隈重信から政治家に広がる。財界や軍のお偉方、文化人、会社員、また清国・朝鮮要人の利用も多かった。維新の元勲であっても物怖じせず応対し、その家族や部下の若者、亡命外国人にも心を配った。

76（明治9）年10月、三菱汽船会社取扱人組合加入の船宿となる。国内航路開設、西南戦争の軍事輸送、海外航路と、港は活況を呈していく。「西村」は乗船切符手配、税関手続き、荷物運搬、渡航手続きも引き受けた。他の旅館は手続きが煩わしいので手を引き、「西村」の独占状態になった。84（明治17）年には回漕業も兼業する。註3

『年譜』宿泊人名の初出は明治10年2月末から3月、東京の歌舞伎役者・十二代目守田勘弥と関西の名優・中村宗十郎。宗十郎は役者同士の諍いで廃業し、呉服承認。勘弥は宗十郎に代わる相手役を探すが果たせず、彼を復帰させる算段。商人姿の宗十郎が「西村」の勘弥を訪ねて来て、船で横浜向かう。補註4

79（明治12）年高則死去。86（明治19）年絹死去。絹は生前息子・家興への「西村」継承を断念していた（註1）。82（明治15）年に元町3丁目で西洋菓子店「盛神堂」を開かせたが、放蕩により破綻。久の娘・春と吉田雅貫（がかん）夫婦の子を養子にしたものの、すぐに死亡。雅貫と春に「西村」を託した。

88（明治21）年雅貫は隣地を購入し増築。この頃小野浜海軍造船所や江田島海軍兵学校に文房具、雑貨、油、蝋燭、石炭、野菜、干物、牛肉などの納入を開始している。

94（明治27）年「西村」に悲劇が起こる。雅貫、春、梅が相次いで死去し、子ども5人が残った。死因は不明だが、感染症が考えられる。後継の貫一（92年・明治25年生）は3歳。雅貫の弟・吉田修平支配人を中心に営業を継続。1901（明治34）年に修平が独立し、神戸駅前で旅館を開業した。貫一成長まで峰吉、常吉、お吉ら（補註5）が支えた。

1909（明治42）年5月『年譜』に作家の名が登場する。小説家・ロシア文学者の二葉亭四迷（長谷川辰之助、1864～1909年）は朝日新聞ロシア特派員だったが、肺を患い帰国の途に就く。4月10日ロンドン発の加茂丸に乗船。5月10日インド洋上で息を引き取った。シンガポールで火葬され、29日午前6時遺骨が神戸港に到着。「海岸西村に投宿して入港を待受けたりし未亡人柳子」（註4）と弟、朝日関係者が出迎えた。

貫一のこと。神戸小学校から関西学院入学。中学5年生のとき教師とトラブルを起こし放校処分。東京の麻布中学校（現在の麻布中学校・麻布高等学校）に転校。トルストイに心酔し作家志望、マンドリン演奏に熱中。後に結婚するマサ（同級生の妹）と出会う。芸者遊びを覚え卒業を危ぶまれたが、無事卒業。校長に礼状を書いた。「はからずも証書に接し驚き入り申候」（註5）。「西村」を継ぐが経営は番頭任せ。1913（大正2）年2月単身ヨーロッパ旅行に出る。敦賀からウラジオストックに渡り、シベリア鉄道。音楽家という夢もあり、ロンドンの日本大使館でツテを求めたが、軽くあしらわれた。貫一よくよく考えるに、音楽家には「バタ臭いそういう環境」と「卓抜した才能」が必要。さらに旅によって自分の視野の狭さと器の小ささを痛感した。音楽家を諦めたが、12月帰国後、日本初の「マンドリンクラブ」を結成している。註5

14（大正4）年貫一とマサ結婚。彼女の家は禅寺、旅館業に難色を示す。貫一は経済力を証明するため世界一周旅行を約束した。生憎第一次世界大戦中のため先延ばしになる。同年6月13日「西村」大広間にて結婚披露宴。宿泊中の中華民国詩人が祝婚詩を贈った。

16（大正6）年2月、ロシアの文豪レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ（1828～1910年）の次男レオレオウィッツ・トルストイ来泊。彼は作家・彫刻家、父の遺訓やロシア情勢を各地で講演。「過日大阪で一場の講演を終り夫人同伴昨二十五日午後零時三十分三宮駅着列車にて大阪より着神海岸西村旅館に投宿し日本料理に舌鼓を打ち午餐」（註6）。3月6日サンフランシスコ渡航前に横浜で会見し、日本滞在の感想を述べた。「日本及び日本人から受けた印象は誠に愉快なもの」、その半面「日本人が非常に温情に富んだ国民であるという一方に、又非常に現実的な利己的な一面を有っているということに大きな不可思議を感ずる」。神戸のこと、「神戸の港の海近い西村旅館の日本座敷に日本のキモノを着てスキヤキとスシの味を賞美した心持、温厚な好紳士神戸市長と相対して都市経営の談話を交換した印象は予の胸に奥床しいものの一つとして深刻に刻み付けられている」。註7、補註6

註1　宮本眞貴子「近代神戸の名旅館・西村旅館について――創業期の軌跡」（『歴史と神戸』296号　2013年）
註2　神戸新聞社著『海鳴りやまず　第一部』神戸新聞出版センター1977年
註3　陸井敏子「西村旅館」（『歴史と神戸』106号　1981年）
註4　「神戸新聞」1910（明治43）年5月30日
註5　芦田章「神戸奇人伝」（『歴史と神戸』58号　1973年）
註6　「神戸新聞」1917（大正6）年2月26日
註7　「同上」3月8日
補註1　1837（天保8）年本家の履三郎が「大塩平八郎の乱」に連座。森鷗外『大塩平八郎　他三篇』（岩波文庫2022年）では「河内弓削村の百姓西村利三郎」。「田畑百七十石所持の河内きっての豪農」（同書注解、藤田覚）。10歳頃から大塩の塾に寄宿。「乱」後逃走。伊勢、仙台を経て江戸に潜入するが、病死。乱参加者は磔刑・斬首、軽くて追放。ほとんどが執行前に獄中で死亡。死体（塩漬け）も磔、獄門に晒された。履三郎は埋葬ずみ、墓を破壊された。
補註2　西村家先祖は俳諧を嗜み、北村季吟、井原西鶴らと句集出版。「花屋」と俳諧から松尾芭蕉臨終地・花屋仁左衛門宅を結びつける歴史探偵もいるが、無関係。
補註3　同年1月11日、三宮神社前で備前藩行列と外国人兵の紛争「神戸事件」。幕府の通達は周知されず。威信も失墜していた。
補註4　歌舞伎作家・木村錦花（1877～1960年）『守田勘弥』（新大衆社、1943年）。貫一は木村に確認。
補註5「神戸新聞」（1924［大正13］年2月23日）「神戸宿屋のローマンス27」に「峰さん」登場。16歳から50年近く勤め、引退。煙草店を営む。お客と絹の思い出話を披露。「お吉」については貫一の回想あり。1899（明治32）年に貫一赤痢罹患。「乳母ノお吉ガ父母ニ代ツテ始カラ末マデ心カラノ世話シテクレタ事ヲ今猶記憶ニ新デス」『年譜』より。
補註6　当時の市長は鹿嶋房次郎（1869～1932年）。在任中（1910～20年）神戸は重工業都市化し、産業・貿易発展、人口増加。一方米騒動など生活不安も顕在。市電開設・伸張、港湾改修ほか、公設市場開設、教育・病院・図書館・公園・下水道整備などの功績を残す。
写真　『年譜』表紙。神戸市立中央図書館所蔵。

# みなとMOTOMACHIケンチクさんぽ vol.16

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会　地域まちづくり委員会

## 栄町通を西から歩いてみた

HDCと神戸クリスタルタワー

秋晴れの土曜日の朝、栄町通を神戸駅の方から大丸に向かって歩いてみました。

栄町通の西側はハウジングデザインセンター（ＨＤＣ）と神戸クリスタルタワーという２つのガラス張りのビルから始まります。ＨＤＣの方は少しクラシカルな意匠を取り入れたガラス張りの建物。夜になるとライトアップが綺麗です。クリスタルタワーの方は、まさにシンプルなガラス張り、天気の良い日は青空に溶け込むダイナミックなデザインです。次は新しくできた、サンテレビの社屋とホテル、落ち着いた色調で素敵な街並みを形成しています。

ポストモダン調のハローワークを横目に見ながら、少し東に向かって歩いていくと、段々とクラシカルで重厚な意匠をまとったオフィスやマンションが増えてきます。おそらく、この地に古くからある、旧三菱銀行神戸支店（1900年竣工　設計：曽禰達蔵）の影響かと思われます。当の歴史的建造物は2016年に解体されたものの、タワーマンションの外壁として復元保存され、街並みに存在感を示しています。

旧三菱銀行神戸支店

## ハーバーロードを通過

筋向いにはガラスとタイルを使った現代的な意匠の神戸中央郵便局、旧逓信省の設計の流れを汲む郵便局やＮＴＴの建物には端正なデザインのものが多いです。斜め向かいに旧帝国生命神戸出張所（1921竣工　設計：清水組）。現在はおしゃれなおにぎり屋さんになっています。

しばらくオフィスとマンションが混在する街並みが続きます。意外なぐらい店舗が少ないのはすぐ北側が元町商店街だからなのでしょうか。マンションもオフィスも少し凝った作りのものが多く感じます。おとなしめで上品な感じはさすがは神戸。オーナー、ディベロッパー、そして設計者に知性を感じます。

神戸中央郵便局

旧帝国生命神戸出張所

旧第一銀行神戸支店（1908年竣工　設計：辰野金吾）、東京駅の設計で知られる辰野が設計した赤煉瓦と白い石のコントラストが鮮やかな建物です。残念ながらファサードだけが残され、地下鉄みなと元町駅の入り口として使われ、北側部分はマンションとなっています。この残し方には賛否両論あるとは思いますが、まったくなくなってしまうことを考えれば良かったのではないでしょうか。

旧第一銀行神戸支店

旧横浜火災海上保険会社神戸支店（1925竣工　設計：河合浩蔵）。この建物もファサードが残され、１階をフルーツパーラー、上階を新聞社のオフィスとして使われています。

明治後期から大正にかけて建てられたこれらの重厚な建築は、かつて東洋のウォール街と呼ばれた時代を彷彿とさせ、それにリスペクトされた現代建築とともに、栄町通の格調高い街並みを成り立たせています。

半面、この地域には高度経済成長期のモダニズム建築の名品が少なく、ポートタワー（1963年竣工　設計：日建設計）以外見当たりません。

## タワーロードを通過

栄町４丁目の交差点あたりからは街並みに賑わいが増してきます。オフィスやマンションの１階部分は店舗になっていて、人通りも多くみられます。営業中の銀行もそこかしこにあります。街灯やバス停のデザインはレトロな港町をイメージするデザインです。歩道の仕上げや街路樹が少し平凡な感じがするのが残念。港のもやい杭のイメージでしょうか、石製の車止めがとても可愛いです。

レトロなストリートファニチャー

旧第一勧業銀行神戸支店（1916　設計：長野宇平太）は阪神大震災で倒壊し、今はタワーマンションが建っています。これは少し旧建物への理解とリスペクトが薄いです。

南京町の南側の入り口、海榮門の隣には天然温泉を売りにする大きなホテルができました。

そしてついに東の端、栄町通１丁目の交差点まで歩いてきました。左に大丸、右に農業会館が望めます。角にあった旧住友銀行神戸支店（1934　設計：長谷部鋭吉）は2014年に解体され、今は駐車場として運営されています。この地にどんな建物が建つのかどんな街並みになるのか、楽しみでしかたありません。

山岡 哲哉（やまおか てつや）
山岡哲哉建築設計事務所　代表
2001-乙仲通の栄町ビルディングにて建築設計活動
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会
地域まちづくり委員長